

---

# ファンタシースターポータブル2 偽神達の転生（日常編続き）

コーラ大好き

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ファンタシースターポータブル2 偽神達の転生（日常編続き）

### 【Zコード】

Z5272Y

### 【作者名】

コーラ大好き

### 【あらすじ】

コーラ大好きシリーズ。日常編続き。

から1年後……

新たな事件を予感しながらも、

主人公ファントムはいつもの日常を過ごしていた。

しかし“制裁者”と呼ばれる存在と遭遇し、心に重くのし掛かる戦いに身を投じていく……

## 0章・裏 ～転生～（前書き）

祝！！

第三部目！！

でも3作品目から変に感じる物です。

（個人の意見ダヨ）

オリキャラが4人程出でくるんですが、プロフィールは次話で書かせてください。

どこかの建物

ある一室に、ビーストの男がイスに縛られている。  
部屋 자체は小綺麗だ。

扉がノックされ、ビーストの男が反応する。

カザ  
「チヨリース！  
元気ですか？  
ゴールドさん」

ゴー<sup>ー</sup>  
「いつまで私を監禁するつもりだ……  
何人かのヒトに会わせ、それっきり来なかつたが……  
何しに來た？」

カザ

「そろそろ良い頃合いなんすよ！  
ちょっと待つて下さいよ」

部屋の外から大きな袋と、重そうなアタッシュケースを持ってきた。

ゴー

「何だ？」

カザ

「ゴールドさんの好きな物つす。

それい！」

袋の中身を全てぶちまけた。

中身は宝石、金塊、骨董系のメダルと  
高価な物ばかりだ。

ゴー

「！－！－！」

カザ

「二つとも！」

アタッショクケースを開け、中身の札束を掘んだ。  
それをばらまき、畠に金が舞つた……

ゴー

「か……金……金ー！」

カザ

「そうです！ アンタが好きな金ですよー。」

ゴー

「つう、オオオオ……」

「ゴールドはつめを皿をあげる……

カザ

「アンタは

ゴールド・シリバシノ

思い出して下さい！

俺達の指命を……」

ゴー

「グアア……ウツ……

アアアアアアアー！！！」

叫び声が止むと、首をダランと落とした。

カザ

「大丈夫ですか～？」

ゴー

「……………」

大丈夫だカザリ。

さつさと拘束を解け

カザ

「ヘイヘイ」

拘束具を外し、ゴールドを自由にする。

ゴー

「ふむ、この拘束方法と器具……

アンナはすでに？」

カザ

「来てるつすよ。

まだ人数は足りないって感じですけど……

……あ、掃除面倒なんで「ゴールドさんの部屋はいじりますよ」

「構わん。

金に埋もれて寝るのは良いものだ」

ゴールドは近くにあつたお札をポケットに仕舞うと、カザリと一緒に部屋を出でいった。

建物内 会議室

楕円形の大きなテーブルに、12脚のイス。

イスに座っているのは3人……  
カザリとゴールドで5人になる。

イスに座り、メンバーを確認する。

ゴー

「まだ5人か……

アンナ・ザ・ブラッド

シェリー・エクスター

ロドリゴ・ゼル大佐

カザリ・イリオン

そして私……

……7人も足りないな

カザ

「今探してゐる最中つす」

アンナは手錠をクルクル回している。

シェリーはエロ本を読んでいる。

ロドリゴはヤスミノ「フローラを手入れしている。

ゴー

「そりは見えないが?」

カザ

「実際面倒なんす。

でも“虚実”以外の居場所は判明しますよ」

ゴー

「どいだ?」

力ザ

「“王権”がガーディアンズの刑務所。

“完全”“愛”“死”

“運命”がリトルウイニング。

“食”は1年前の事件のせいで体が存在しません」

ゴー

「“食”はO.F.Mになつたんだつたな。

“虚実”の力ならどうにかなるかもしけんが……

シヌは私達の邪魔しかしないな」

ゴー

「地獄で復讐出来るかと思つたが……

……フン、いつか果たす時が来るだろ、う」

力ザ

「そうつすね……

さて、最初は“王権”から連れ戻しましょう。ニユーデイズのガーディアンズ刑務所です。

始めましょう……

制裁の時つす」

さつきまでやる気の無かつた3人が田の色を変え、武器を手にとつて部屋をあとにした。

彼らは転生した……

下らないエゴの為に……

少なくとも……

彼らが行つ事は、神がする事ではない……

そのような事はヒトしかしないからだ……  
つまり彼らは偽神……

偽神達は転生した。

## 0章・裏　～転生～（後書き）

最後の何なんだ？

小説内に出てきた“　”などは、  
制裁者の信条みたいなイメージです。  
違う奴もいるけど。

～拒絶、金、拷問、

欲情、戦争～（前書き）

緊張感無い書き方だな～

拒絶、金、拷問、

欲情、戦争、

カザリ・イリオン

Lv?

性別・男性

年齢・18歳

種族・ヒューマン

身長・175cm

体重・61kg

タイプ・“拒絶”

髪・チャラい 茶（染色）

服装・日によつて違うが

チャラい

所属・twelve punisher

何から何までチャラい男性。

ファンタムの前では紳士になる。

半年前まで高校に通つていた青年。  
しかし行方不明になる。

行方不明になつた数日後……

ローグスのビーストの男性と銀行強盗を働く。

ビーストの男性を裏切り、屋上に居るところをルシフェルに見つか  
る。

（故意）

意味深な言葉を残した後、奪った金品を持ち去った。

因みに、裏切られたビーストはガーディアンズの留置場に居たが、  
死亡している……  
殺したのはカザリ。

ゴールド・シルバシノ

L V?

性別・男性

年齢・45歳

種族・ビースト

身長・179cm

体重・70kg

タイプ・“金”

髪・丸刈り(6mm)、黒

服装・スーツをだらしな く着ている

所属・twelve punisher

喋り方と雰囲気は大人しいが、金や高価な物を見ると目の色が変わ  
る。

モトウブの大富豪で、表だった仕事から裏の仕事にも精通している。

ファンタムに対して、緩く接する。

アンナ・ザ・ブレイブ  
L.V.?

性別・女性  
年齢・27歳  
種族・ニューマン  
身長・174cm  
体重・58kg  
タイプ・“拷問”  
髪・セミロング、赤  
服装・ルナプロフェシー

黒

所属・twelve punisher

超ドSなニューマンの女性。

喋り方も相手を見下した感じ。

カザリと同じで、ファンタムに対して忠誠の雰囲気がある。

ザ・ブレイブは

コードネーム。

フルネームを知るヒトは制裁者だけだが、他言無用らしい。

グラール教団の裏組織の一員で、異端者や破戒した者を拷問する。  
(カレンやルツは知らない)

普段から鞭とボウガンを携行している。

### シェリー・エクスター

Lv?

性別・女性  
年齢・製造から14年  
種族・キャスト  
身長・140cm  
体重・28kg  
タイプ・“欲情”  
髪・ツインテール、橙  
服装・セーラー服  
所属・twelve punisher

性欲求に物凄く興味があるキャストの女の子。

快樂を知る為にボディを改造し、性行為が出来る。

元は記憶機能をヒトに近づけたタイプのキャストで、学校に通っていた。

シェリーはファンタムに忠誠と言つよりかは、男性として見ていく。

基本的に工口本、官能小説を読んでいる。

ロドリゴ・ゼル

LV?

性別・男性

年齢・75歳

種族・デューマン

身長・190cm

体重・87kg

タイプ・“戦争”

髪・目立つオールバック

白髪

服装・緑の軍服

所属・twelve punisher

元軍人のデューマンの老人。

最終階級は大佐。

話し方は「儂」や「お主」と言つ。

数週間前まで隠居生活を送っていたが、

twelve punisherの制裁者になつている。

戦闘狂な一面があり、70代とは思えない動きをする。

ファンタムに対して嫌悪感があるが、どういうわけか従つている。

“12人の制裁者”

キリスト教における地獄の長……

墮天使ルシフェルが構成した12人の男女。

ファンタム、エミリア、ナギサ、シズルも制裁者だが、そのような自覚は無い。

それぞれに

“王権” “運命” “食”  
“金” “拒绝” “完全”  
“愛” “死” “欲情”  
“戦争” “拷問” “虚実”  
と言つ意味がある。

構成理由は神を倒す為。

シヌは全員の正体を知っている。  
神は、ミレイ・ミクナと協力して制裁者を抹殺しようと命令している。

～拒絶、金、拷問、 欲情、戦争～（後書き）

実はキリスト教の

七つの大罪にしようかと思ったのですが……

キリスト教ばかり入れるのは変なので、独自の物に……

## 0章・表～偽神の力～（前書き）

最初はファンタム目線ですが、途中から第三者目線です。

## 0章・表～偽神の力～

シヌが引き起こした事件から一年経つた……

半年前からあのカザリというチャラ男とは、慰安旅行以来会つてはいない。

戯言を言いに来た……？

そつ言つてしまえばそつ思いたい。

これ以上事件は「コメン」だ……

クラシック6  
リトルウイング  
居住区 ファントム血室  
正午

俺は部屋で、昼食の自作クリームスパゲティを食べていた。  
マリ、ヒロコ、ナギサも居る。

エミリアとナギサは俺に対して相変わらずだが……

半年前からマリの態度が少し変わった……

具体的に言つと、干渉が激しくなつたのだ。

これまで、少し干渉したとしても本音を聞こすとする事は無かつた。

本音など読心術を使えばわかりそ่งだが……

現在、出来るだけ口から言わせようとする。

聞く事は決まって……

力ザリとロストの事だ……

いつの間にか心を読まれていたらしい。

「アタシを除け者にするな！」

「頼れ！ 一人で背負うな！」

わかつてゐる……

除け者にするつもりはないし、頼りたい……

だが……

危険に晒したくはない……

勿論マリだけではない、仲間もそうだし、他人もそうだ。

考え方事が最後になると、毎回マリに言われる事がある……

マリ

「自己犠牲は許さないよ」

エミコアとナギサの前で初めて言った。

「マツの言葉にキヨトンとする2人。

エミ

「どうしたの？」

ナギ

「ファンタムの事か？」

マリ

「何でもないよ  
ファンタムの料理美味しい！」

ファ

「……………ありがとう」

少し変わってしまったが、不快感があるわけではない。  
その内、元通りになるだろう……

ニューデイズ  
ガーディアンズ設立  
ケイリヨン刑務所

地球で言う、中国の様な名前が多い地域の森に、この刑務所はある。

森を囲む都市の名前は

“都市リクヨ”

金持ちしか住まない都市。

しかし、犯罪発生率が高い。

何故なら違法カジノやヤクザの事務所、非公式な地下都市……  
光あるところに闇、とはこの事だらう。

それを牽制、犯罪率低下を理由に刑務所を設立している。

ケイリヨン刑務所があるケイリヨンの森は、凶暴な原生生物に入り組んだ道……

刑務所には特定の道でしか辿り着けず、外に出る場合もそうなる。  
何も知らない受刑者が森を抜けようとしても……

原生生物に跡形も無く食われる。

○ r

森に迷い、絶望後に自殺。  
どちらかだらう。

異常な場所に置かれてるケイリヨン刑務所に入所するのは、言つまでもなく、凶悪な犯罪者。ほんの一握りだけが出所出来るが、大半は刑務所で人生の幕を閉じる。

そんな刑務所がある森の上空を、今では見かけないヘリが飛んでいる。

搭乗者は  
Twelve punisherの5人だ。  
ロドリゴが操縦している。

ロド

「狩りを楽しんでこいよ！  
ガハハハハ！」

アン

「馬鹿笑いするな  
老いぼれ」

ゴー

「アンナ、金をやるからその喋り方止めろ」

シェリー

「刑務所って言つたら  
AVの種類であるよね」

カザ

「自由人っすね」

確認しますが、目的は

“王権”の奪還。

狩りは邪魔する“ゴミ”だけですよ。

カザリ、いきまーす！」

カザリは一番に飛び降りた。

アン

「酷いパクリだな

口を縫うぞ、チャラ茶髪」

次にアンナが飛び降りた。

シェリー

「“ゴミ” 閻除とS\*Xは同じ位たのしつてね」

シェリーも飛び降りる。

ゴー

「変わらないな……」

ロード

「変わらんぞ。

時代は変わったがの」

ゴー

「やうだな大佐。

……帰つたら小遣いやるよ、お爺大佐」

最後にゴーラードも飛び降りた。

全員、パラシユートなど着けていなかった。

ロード

「だれがお爺じゃ！

ガハハハハ！！」

ヘリを旋回させ、森の開けた場所に着陸した。

ケイリヨン刑務所  
入口前

4人はコンクリートの地面に着地したが、骨折はおろか外傷も無い。

カザ

「さつさと“王権”を連れ帰ろつ。  
長居は無用つす。

と、言いたいですが……」

4人の前に

黒いゴコウバオリを着て、キセルを吸い、自身と同じ名の剣を持つ  
男が立ち塞がつた。

ルシ  
「待つてたぞ。

カザリ・イリオン」

キセルを吸い、煙を吐き出すルシフェル。

アン  
「アンタの知り合いかい？」

カザ  
「そうですよ。

ルシフェル  
……

それでわかるつすね？」

シェリー

「へえ」

ファントムさんのお兄さんね~」

ゴー

「私達のファントムに兄弟などいない

カザ

「そうつすね。

ファントム様に兄弟はいない。

……ここは僕ちんが止めます。

アンタ達は“王権”を……」

アン

「指図するな チャラ男。  
不本意だが私も加わるつ

ゴー

「では私とシェリーで探そう。  
行くぞ」

シェリー

「アイアイさ～」

ルシ

「まあ待てよ……！」

セイバーを、後ろを通ろうとした2人へ振った。  
フォトンの衝撃刃が飛んでいき、回避行動をさせた。

衝撃刃は刑務所の壁に当たり、巨大な裂け目が出来た。

ゴールドとシェリーはカザリ達の場所へ行く。

シェリー

「やつてくれんじやん」

ゴー

「墮メ野郎の名だけはあるな」

カザ

「名は転生に必要な要素ですもんネ」

墮メ野郎は人間じゃないけど、影響はあるみたいですね」

アン

「どうでも良いけど……

アンタ、中の奴らの心配は無しなんだね。  
人間は同族を庇うんだろう?」

アンナは衝撃刃が作つた裂け目を指差して言った。

ルシ

「さつき俺は……

“待つてたぞ”  
と、行つたぞ」

カザ

「既に避難済みですかい?」

ルシ

「そうだ……

ガーディアンズと協力してお前を見つけたんだ。  
迎え討つ準備は出来ているし、もう1人の仲間も取り押さえられて  
るだろう」「

ケイリヨンの森  
開けた土地

ヘリを囲む様に、ガーディアンズが取り囲む。  
中には、ルシフェルに協力する数名のローグスがいる。

部隊長はバアルだ。

バア

「船を降りて大人しく投降しろ！」

ロード

「ガキ共が……

ここで危険なのは部隊長みたいなのとタイラーかの……」

ローグスはタイラー、ヴィヴィアン、リリス、ロスト、がいる。

ケイリヨン刑務所

カザ

「なめられてるな……

僕ちん1人じゃ無理だけど、4人も相手取れないでしょ？」

ルシフェルはキセルを消し、ナノトランサーに仕舞った。

ルシ

「雑魚4匹……」

簡単に釣り上げれる

アン  
「言ひじゃん……」

白髪野郎！――」

クイーンヴィエラを、数十本一気に打ち出す。

ルシフェルは衝撃刃で全て落とす。  
しかしアンナに後ろを取られ、  
刃鞭パーティーソを振られる。

そんな事をさせる前に、前を向いたままアンナを蹴った。  
壁に激突する。

アン

「ガハツ！」

ゴー

「頭に血が昇り過ぎだな。

しうがない……

私が回復に向かう」

アン

「必要ない！－！

こんな屈辱……

ファンタム様に陵辱された以来だ－－！」

ルシ

「ファンタムはそんな悪い奴じやない」

アン

「今のファンタムじやない－－！」

何も知らない“ゴミ”が……

“鉄の処女”

アイアンメイデン－－！」

ルシフェルの真後ろに魔方陣が現れる。

（ルシ）

！？ 何だ！？

危険を察し、避けようとしたが……  
若干遅く、鉄の処女に飲み込まれた。

ガシャン！

扉が仕舞つた音……  
冷たい鉄の音だ。

直後に聞こえる、

ルシフェルの痛みを堪える声。

ルシ  
「グツ！ ウ…グア…！」

アン  
「もつと叫ぶかと思つたけど……  
大したものだね」

カザ  
「アンナさん！  
力は抑えて下さいよ！」

アン  
「黙れ！ お前だつて銀行強盗の協力者を“拒絶”の力で殺しただ  
ろ！」

カザ  
「チツ……」

ゴー

「喧嘩は止める。

ファンタムが見たら、怒られるぞ」

アン

「……わかったよ」

カザ

「……悪かった」

シェリー

「じゃあ仲直り！」

握手握手

無理矢理握手させる。

ゴー

「よし、大佐のところまで行こう」

4人が歩き出すと……

バキバキ……  
バリン！！

鉄の処女を無理矢理壊し、出てくるルシフェル。  
痛々しい針の傷跡が見える。

キセルをくわえ、セレスティアルブレイズを構える。

シェリー

「アンナさんの“拷問”の力を……

鉄の処女……

まさに処女喪失……

ゴー

「下らない事を言つな。

これは大問題だ」

カザ

「ですね。

いくら墮メ野郎の名前を持つとしても……

所詮人間……

僕達の力を覆すなんて……」

アン

「ムカつくな……」

ルシフェルは微笑し、  
キセルをくわえながら煙をはいた。

ルシ

「言つただろ雑魚共……  
釣り上げれる位簡単なんだよ。

お前らが何であろうと……雑魚なんだ」

アン

「腹立つねえアンタ……

拷問は無しだ。  
殺してやるよ」

ルシ

「せいぜい頑張れ……  
調教してやるよー」

「の口から……

制裁者達との戦いが始まった……

雪降つて寒い……

ストーブ使つてないと指先がおかしくなつて書けなくなる……

何の話！？

アンナ“拷問”

・鉄の処女

アイアンメイデン

・拷問具

高さ2m

女性を型どつており、前面には觀音開きの扉が付いている。

中には大小様々な針が付いてあり、致命傷を避ける様に設計されてある。

グラールには存在しない。

地球では、

中世のヨーロッパで作られた。

拷問具の中では最も有名だと言つてもいい。

しかし、資料や实物に似せたレプリカによると……

使われた経歴が少なく、復元した物のほとんどは致命傷に刺さる設計になつていて、

実用されていたかは、



## 1章・0 → 使者へ（前書き）

やつぱり、緊張感が無い書き方だな……

進歩しないこと。

## 1章・0 ～使者～

ニューデイズ  
ケイリヨン刑務所

入口の前に十字架が立てられてある。

それに磔にされている……

ルシフェル……

手と足に杭が刺さっている。  
まだ息はある。

アン

「ハア……ハア……ハア……

ざまあ見ろ……

“拷問”の私の力は……中々死ねないよ」

十字架はアンナの力で出現させたらしい。

アンナ以外の3人も息を切らし、傷だらけだった。

カザ  
「思つた通り……  
悔れないっすね」

カザリに至つては、腕を斬り落とされている。  
片方の腕で落ちた腕を持つている。

ゴー

「攻撃型の力ではない私とシェリーは……  
役立たずだつたな」

シェリー

「“金”も“欲情”も興味を示さないもんね……」

カザ

「もう良い……

大佐のところへ行こ」

全員歩き出した。

すると……

ブシャー！

杭から手と足を引き抜き、セイバーで斬りかかる。  
瞳孔は開きっぱなしだ。

セイバーはアンナの顔面を捉えた。  
顔に突き刺さる。

ルシ

「ハアアー！！」

上に振り、鼻から脳天まで真つ一つになる。  
よろめきながら、後ろへ距離を取る。

カザ

「まだ動けるんですか～？」

ゴー

「他の“＼＼＼”とは違つとうだな……」

シェリー

「使い回せる粗大ゴミ？」

3人が3人とも、アンナの事など話していない。

ルシ

「仲間の心配は？  
……冷たいな」

“4人”が笑う。

アン

「アハハ！

ファンタム様以外は信じていなけれど、  
死にかけても心配しないのはわかる」

頭を割られながらも悠然と話す。

ルシ

「……………」

「どうなつてゐる……………」

アン

「そこまで話す必要は無いわ。

ここまで奮闘を称して、綺麗な死に方をさせてあげるわ。

“斬首台”ギロチン

魔方陣からギロチンが出現した。  
ルシフェルの首を抑える。

ルシ

「クソ……………」

アン

「拷問器具だけじやないのよ。

It's showtime!!!

レバーを蹴つて、

刃が振り下ろされた。

## ケイリヨンの森

### 開けた土地

草は血に濡れ、木はへし折れている。

その土地で立っていたのは、ロドリゴとタイラーとバアルだった。

しかしタイラーとバアルは疲弊しきっている。

ロド

「なんじや……

全然弱いの」

タイ

「クッ……」

タイラーは手に力を込める。

バア

「ナノプラスチックはダメですよ。

使つても勝てないだろ？し、貴方の体が持ちません」

タイ

「だが……

ロード

「小僧、それは違つぞ」

バア

「何がだ？」

ロード

「兵士たるもの、死ぬと解つていても戦わなきやならん。  
それが出来なければ兵士ではない」

バア

「まるで道具だな」

ロード

「戦争では道具じゃ。

戦場ではそれ以上の価値は作れん

バア

「貴様……」

ロドリゴは  
コマンドブレザー  
を取り出した。

ロド

「お主らじや相手にならん。死ね」

巨大な刃が向けられ、射出された。

……ガキン！

光テクニック  
グラントによって弾かれた。

ロード

「なんじゃー?」

「タイ  
?」

「バア  
誰が……」

ロードリゴの前に、フード付きの白いマントを羽織った人物が降り立つた。

ケイリヨン刑務所

ギロチンの刃は、

ルシフェルの首を切り落とさなかつた。

フード付きの黒いマントを羽織った人物が、ルシフェルの拘束を解

い救出したのだ。

ギロチンの横にルシフェルを寝かす。

アン

「誰？ お前……ウツ！」

黒マントは、アンナの首を真つ黒な日本刀で斬った。

返り血を浴びる前に、カザリ達の場所へ蹴飛ばした。  
カザリがキャッチするが、腕が一本しかないので器用に足を使つ。

ゴー

「傷を負い過ぎてアンナは動けないな」

シェリー

「それより……

アイツ誰？」

フードを被つて顔はわからないが、体付きから男だろつ。

ルシ

「……誰だ？」

黒マント

「俺を忘れたか？」

あれだけ復讐しようとしたのに

ルシフェルは声でわかった。

黒マントが誰なのかを。

それはカザリ達も例外ではなかった。

シェリー

「！！！」

その声……！！

SUVウェポンの  
ガトリングシステム  
ラファールバースト  
を呼び出し、発砲する。

しかし黒マントは、  
漆黒のフォトンの壁を作り、銃弾を遮る。

ゴー

「丁度良いーー！」

やつとお前を殺せる

後ろに回り、

エンドイフで斬りかかる。

それを避け、足で肘を逆に曲げた。

ゴー

「ガツ！」

頭から踵落としを食らわせ、地面にめり込ませた。

シェリーのガトリングが止む頃、漆黒のフォトンの壁を解いた。

カザ

「何故！？」

何故アンタはグラールにいるーー？」

黒マンテ

「神のお陰だ。

ちょっと前までは信じてなかつたがな「

マントを脱ぎ捨て、姿を現した。

黒い服に黒いコート、

漆黒の髪に田立ちにくいオールバック。

カザ

シヌ……！」

川  
シ

シヌ

遂に舞い戻つた！！

人間は滅ぼせないか、

お前達を“また”を殺せ!!

それで墮メ野郎の邪魔をし、居なくなるなら……  
こんなに嬉しい事は無いぞ！！！」

(カザ)

分が悪過るわん……！

いくら僕達が死ななくとも、粉々にされわん……！

カザ

「シェリーちゃん！

アンナさんを！」

アンナをシェリーに託し、素早くゴールドを回収した。

シヌ

「せいぜい逃げる。  
ゆっくりと追い詰めて  
殺してやる」

カザ

「ウゼヒ……

シェリーちゃん、大佐のところへ行こう

「……わかつた」

「ゴールドヒアンナを背負い、森に消えていった。

シヌ

「…………

立てるか？ ルシ…………

差し出した手を振り払い、M19を向けた。

ルシ

「何故生きている？

ファントムはお前を殺したと…………

クッ…………

銃を落とし、地面に倒れてしまった。

シヌ

「手と足に穴開いてるに…………

無理するのはファントムと同じだな」

シヌはルシフェルを背負つた。

ケイリヨンの森  
開けた土地

ロボリーパの弓を的確に落とす由マン。

(ロド)

これ程のテクニック……  
フォースの上級者でも  
中々いない……  
一体何者じゃ？

決着がつかないまま時間が過ぎていく。  
すると、カザリ達が走ってきた。

確かに体付きから女の子だとわかる。

ア、口

「…………！？」

「びひこたんじゅーーー。」

カ、ザ

「話はあとります。」

「へこをぬけてーーー。」

ア、口

「わ……わかった……」

ヘコに乗り込み、Hンジンを作動させた。

白マントは直撃せずに、ヘリを見送った。

バ、ア

「君…………凄いね…………」

「女の子だらう？？」

白マン荼

「ありがとうございます。」

戦闘経験は無かつたのですが……」

フードを取る……

白マン荼の正体……

ミレイ・ミクナ

、その人だった。

バア

「君つて……」

タイ

「バカな……」

君は5年前に……」

シヌ

「そう！ 彼女は5年前、お父さんに誤つて殺された。

意識があるのは君達だけか……」

つと……

ルシフェルを背負つて、シヌが現れた。

ミレ

「みなさん危険な状態ですね……」

救援が来るまでは私が治療しましょう」

シヌ

「みんな面識が無いのに……」

星れ……じゃなくて……

幻視の巫女様は慈悲深いですね」

ルシフェルを横たわらせる。

他にも倒れているヒト達を、一ヶ所に並ばせた。

## 1章…0 → 使者へ（後書き） (あ書き)

タイラーとミレイって……

面識無いですかね？

ユニバースを詳しく知らないので……

## 1章・1 ↗ 求めていたの

は仲間へ（前書き）

後半が強引ですが、  
カレンは聞き分けが良いんですよ  
……  
たぶん……

# 内ヘリ物私ゴドリ

四

「なつ

シヌが現れた事に激しく激怒する。

アン

「うんがいは毒づがない。

わだじも同じぎぶんだがらね

喉を斬られて、何を言つてるかわからない。  
それに加え、頭を割られているのだから。

カザ

「無理しない方が良いですよ。

死ななくても、痛みはある程度感じるんですから」

アン

「わがつでるわよ

シェリー

「それよりどうするの?  
アイツがいたら制裁は  
無理じやない?」

ゴー

「ファンタムが“虚実”……  
どうしかがいたら、どうにかなるかもな……」

制裁者達は圧倒的な敗北をし……  
帰路についた……

都市リンクヨ 病院  
待合ホール

ファンтомが現れ、ソファーに座っているバルに近づく。

バア

「ファンтом君……」

ファ

「兄貴は！？」

バア

「704号室だよ。

まだ……

ファンтомは最後まで聞かずにエレベーターに向かった。

バア

「……最後まで聞こいつよ。

まあ……兄弟だからか……

心配しなかつたらおかしい……」

レディ

「私もお兄ちゃんが心配だよ」

売店で買い物をしていたレディが、バアルの元に戻る。隣に座ると、缶コーヒーを渡した。

レディ

「お兄ちゃんも銃創が多かつたんだから……  
安静にしていないと」

バア

「まだ余裕さ。  
それよりも……」

レディ

「？」

（バア）

何故、幻視の巫女が？  
それにシヌという奴……  
僕やタイラーさん達が手を焼いた奴らを  
4人も倒すとは……  
何者なんだ……？

ガーディアンズも関わった事だし  
僕も動かないと

ルシフェル病室  
704号室

病室の中には  
ヴィヴィアン  
タイラー  
リリス  
ロスト  
が居た。  
そしてもう一人

ファ

「！？！？」

何故シヌがいるんだ！？」

シヌ

「しー

病院では静かに」

ファ

「貴様！」

リリ

「待つて下さい！

シヌはルシフェルを助けてくれたんですね！」

ファ

「なー!?」

意外な事実に驚愕する。

狂神の信念時のマガハラで同情したと言つても、シヌを信じている  
わけではない。

ファ

「ロスト、本当か？」

ロス

「……ああ。  
間違いない」

シヌ

「残念だつたな」

ファ

「チツ……」

何故生きている?」

シヌ

「まだ話す必要は無い。」

今はルシフェルの近くにいるんだな

シヌ

シヌはファントムの横を通り、

「（後で屋上へ來い）」

シヌ

「そう言い残し、去ってしまった。」

ファ

「……」

兄貴はどんな状態だ?」

リリ

「…………」

タイ

「意識不明だ……」

死にはしないが、当分は目覚めないだろ？……

ヴィ

「手と足に重傷を負つて……」

血液量が足りてない状態なんですね……」

かなり元気が無い  
ヴィヴィアン。

5年近くも相棒なのだから当然だろ？。

ファ

「一体誰が……」

マリ

「お兄さんは！？」

船を停めに行つていた

マリが、病室に入つてきた。

ファンタムを先に降ろし、自分は船を停めていたのだ。

リリ

「ルシフェルは大丈夫よ……  
大声出さなくても良いわ」

リリスは落ち着いている。  
ルシフェルの心配はしているが、ヴィヴィアンとは少し違う見方な  
のだろう。

ヴィヴィアンは心配し過ぎ。  
リリスは信頼し過ぎなのだろう。

「……  
フア

ファントムは場を見計らい、病室をあとにした。

ファンタムは屋上についた。  
シヌは手すりによしかかり、景色を眺めている。  
夕日が輝いていた。

シヌ

「君はタイラー君と、ヴィヴィアンちゃんに、俺の事を話したんだな。  
会った事は無いから  
初めてましてだつたけど」

ファ

「嫌な目で見られただろ?  
貴様のした事は全て話していく」

シヌ

「嫌な目しかされなかつた……  
どうやら俺の信念は、君しか知らないみたいだな。」

……同情は避ける。

「からの戦いは特にな」

ファ

「貴様に指図される覚えはない。  
それより、何故呼んだ？」

シヌ  
「聞きたい事位あるだろ？？」

君は主人公だ。

知つておく事はある

少し前と何も変わっていない様に見える……

しかしふァントムは、  
違いを感じ取ったのか、信じる事にした。

フア

「何故生きている？」

シヌ

「神だ。」

奴が直接、俺に罰を与えた。

生き返つて制裁者達を抹殺しようと

フア

「制裁者達？」

シヌ  
「通称

twelve punisher

カザリつて奴はそのメンバー……  
簡単に言つと

“ 転生者 ” だ

フア

「 転生者 ?

てか、そのメンバーつて俺やユミリア達も……

シヌ

「 それは自分で調べる。  
神はそう望んでいる。

言えるなら……

君やユミリアちゃん、ナギサちゃん、シズル君はまだ抹殺対象じゃ  
ないって事だ 」

フア

「 話せる事と話せない事があるのかよ……

制裁者達の目的は ?

シヌ

「 人間への制裁。

俺と似た様な事をするつもりだ

フア

「 …… そりや凄い。

そつそと潰さないと

シヌ

「言つておぐが、奴らは1人1人が強い。  
一気に相手にしたとしても2人が限界。  
ルシフェルは4人相手での様だ」

ファ

「大丈夫だ。  
俺には……」

シヌ

「コクイントウで作った刀があるから余裕?  
だが体を酷く酷使する」

ファ

「！？ 何故知つて……」

！』

シヌはファントムの額に触れた。

ファントムの脳に

星靈祭の記憶が流れ込む。

シヌ

「君はこの祭で刀を使つた。

無かつた事にされた後は1度も使つていない」

ファ

「ロストの話は本当だつたな……」

シヌ

「…………

制裁者達はまだ5人しか集まつていない。  
君達を抜かして最大7人。

傷が癒えるまでは仲間探しはしないはずだ、いつでも戦える準備は  
しておくんだ」

ファンタムを置いて、  
屋上から立ち去ろうとする。

ファ

「どこへ行くんだ?」

シヌ

「俺と一緒に星れ……  
じゃなくて、ミレイが生き返った。  
神は2人1組でいろいろて」

ファ

「なら亜空間能力を使えば良いだろ」

シヌ

「神が少し前の俺を

そのまま復活させると想つか?

亜空間能力で使えるのは

- ・他人の治癒
- ・黒餓を取り出す時
- ・Aフォトンを生み出す時

それと昔みたいに

Aフォトンは纏えない。  
自分を亜空間で治せないからな。  
不老不死も取り上げられた。

使えると言つたら……

- ・精神病の身体能力の強化
- ・Aフォトンを纏わず使用
- ・亜空間から黒餓を取り出す

今日は俺で倒せるしヽだつたが……

君か“虚実”……

どちらかが制裁者の戦力になれば……

俺達は負ける

シヌは立ち去つた。

フア

「……俺“達”……  
すっかり仲間だな」

ファンタムは微笑むと、手すりに寄りかかった。

ニューデイズ  
オウトク山  
グラール教団

教団員でも中々通らない通路の端に、カレンがいた。  
ガーディアンズ制服を着ている。

カレ  
「……  
一体誰なんだ?」

手に持つている手紙を見る。

ビーフやら誰かに呼ばれたようだ。

「カレン……？」

「カレ  
「！？」

誰もいないはずの後ろから声をかけられ、武器を構えて後ろを見た。

そこには白マントを着た人物がいた。

？

「わわわ！  
待つてカレン！」

カレ

「……」

その声……」

フードを脱ぐ。

正体はミレイだつた。

カレ

「ミレイ……」

ミレ

「久しぶりね……」

5年振りかし……

……一……」

何故生きているか?  
何故今になつて?

そんな事を一切聞かずに、ミレイに抱きつくカレン。

カレ

「会いたかつた……」

本当に……

会いたかつた……」

ミレ

「カレン、……

すみませんカレン。

あまり長く一緒にはいられません……」

カレ

「…………？」

ミレ

「私は死にましたが、  
ある理由で生き返りました」

カレ

「どうこの事なんだ？」

シヌ

「ここに居たのか。  
ミレイ、神は離れるなって言つただろ」

いつの間にかシヌが居た。  
ミレイを探していたようだ。

ミレ

「すみません」

シヌ

「いや、謝らなくて良い。

気持ちがわからないわけではない」

ミノ

「ありがとうございます」

カレ

「彼は？」

ミノ

「シヌです。

私達の助けになつてくれます」

カレ

「シヌ……

まさか、ファンタムの言つていた……

ムサシジサシを構える。

シヌ

「嫌だなあ全く」

シヌも臨戦体制を整える。

しかしミレイが割って入った。

ミ

「シヌさん、弁解と叫びのを知つて下さー。

カレン、ファンタムさんから聞いたシヌさんの印象は良いものでないと思ひます……

しかし、今は仲間です」

カレ

「…………

わかつた……」

87

カレンがムサシジサシを仕舞うと、シヌも警戒を解いた。

ミ

「いいですか？

詳しい事は話せませんが、私とシヌさんはある意思によつて生き返りました。

目的は……

グラールを守る為

カレ  
「！」

ミレ

「グラールを守るには、私とシヌさんだけでは不可能なんです。  
……お願いします。  
力を貸して下さい」

カレ

「……

双子なのに水くさいな。  
協力するに決まってる。  
グラールの為でもあるしな」

ミレ

「カレン……」

カレ

「で……私はどうしたら良いんだ？」

ミレ

「はい。

1週間後……

ここオウトク山に事情を知った関係者が訪れます。  
私も顔を出します。

それまで私の事を話さないで待つていて下さい」

カレ

「それだけか？」

シヌ

「ガツカリか?

アイツらと戦わないだけマシだと思つたが。

俺は下の町に泊まつてゐる。

君達は、仲良く同じ部屋で寝たら良い。

ああ……それと、仲良い奴にも無闇にミレイの事は話すなよ」

立ち去る。とするが……

カレ

「待つてくれ。

今氣を使つてくれたな?

なら私も氣を使おう。

私がここに泊まれるよ!手配する

シヌ

「……

そうか、お言葉に甘えよう

カレンが手を差し出す。

カレ  
「？」

何故か握手せずに去ってしまった。

シヌ  
「ゼロ・ブラック・シヌだ。  
よろしく」

握手をしない……

シヌ  
「知ってるけどな……」

カレ  
「挨拶がまだだつたな。  
カレン・ミクナだ」

シヌ  
「？」

ミノ

「「」みんなで……シメちゃんと悪戯は無いんですけど……

私達に触れる事を怯えているのです」

カレ

「??」

ミノ

「私達のよつな、フォトンに敏感なヒトにわかつてしまつたです。  
彼の心が……」

カレ

「心……?」

ミノ

「生き返つた時に一度触れたのですが……  
……常人には耐えられない闇を感じました……  
それを知られて、仲間が去つていいくのが嫌なんでしょう……」

彼にとつて……

やつと出来た仲間なんです「

## 1章・1　～求めていたの

## は仲間～（後書き）

シヌはまだ、人類滅亡を考えている節がありますが……  
神の監視下なので、そんな事は出来ません。  
若干諦めたのか、仲間を求める感じがあります。

twelve punisherの紹介は、ネタバレが若干あります。

ゼロ・ブラック・シヌ

L V 250

性別・男性

年齢・18歳

種族・第1人類

身長・183cm

体重・69kg

タイプ・“絶望”

“嘘”

“狂気”

“信念”

“対価”

“闇”

髪・目立たないオールバ

服装・黒い服、黒いコート

ツク、漆黒

所属・神の使者

1年前に起こった、

狂神の信念の首謀者。

ファンタムに倒され地獄へ落ちたが、神との交換条件により働いて  
いる。

交換条件の内容は……

天界に住まわせる代わりに、生き返って制裁者達を抹殺すること。

現在でも人類滅亡は諦めていないが、神の監視下にいる以上は出来ない。

しかしシヌの考え方が変わってきたのか、諦めかけている。その理由は仲間が一因と思われる。

仲間までいかなくても、親近感がわいてきているようだ。決定的なのはカレンと握手しなかつた事だ。

ミレイもそうだが、

フォトンに對して敏感な人物だと、シヌに限つて心が見えてしまうらしい。

自分の心を知られて、離れていくのを避ける為に握手はしなかつた。

現在はオウトク山のグラール教団に部屋を持っている。

一緒に生き返った協力者のミレイは、基本的に一緒に行動しなければならない。

恐らくミレイに、シヌを近くで見張らせる為。

神によつてシヌの力の半分は使えない。  
使える能力は、

- ・Aフォトンを纏わづ使う
- ・亜空間能力による他人の治癒
- ・黒餓を取り出す
- ・神病の症状の身体能力強化

タイプは制裁者達の様な力は所持していないが、シヌを象徴する意味がある。

- ・“絶望”

ミレイやカレンが感じ取るのはこの感情。少し前は人間を絶望させるのを良しとしていたが、現在は自ら与える事は無い。

- ・ “嘘”  
制裁者の“虚実”とは少し違う。  
虚言癖は自重氣味。

・ “狂氣”  
狂神の信念時に、人間の悪で人類を滅ぼそうとした。その悪が“狂氣”。

・ “信念”  
自分の悲劇を生み出さない為に、人類滅亡を“信念”にしている。

- ・ “対価”  
シヌのお礼に関する。  
永遠なる信念では明かされなかつたが、制裁者達のある1人に關係がある。

・ “闇”  
歪空間の歪みで生まれるAフォトンを示している。  
これは制裁者と似ている。

生き返った為、歳をとり始めている。  
神が能力を半分封じているので、レバが現実的に……

性別・女性  
年齢・18歳  
種族・ニコーマン  
タイプ・フォース  
容姿・S E E D 事件時と同じ  
所属・神の使者

5年前のS E E D 事件時に、  
誤つて父親に殺害されている。  
幻視の巫女であり、カレンとは双子。

死亡後は天界に送られ、神に星靈になつてほしいと頼まれる。  
グラール教団が出来た頃から星靈は存在しておらず、信仰によつて  
生まれた神々（ヤオロズなど）を統括する為に星靈に任命された。

自分を神の一人としては見ておらず、あくまでもヒトして存在した  
いようだ。

しかし生き返つた際に神の力が少し残つており、良くなは思つていな  
い。

L V は約250。

年齢は死亡時からになる。

シヌと一緒に生き返つた理由は監視の他にも何があるようだ。

現在はオウトク山のグラール教団で寝泊まりしている。  
星靈という事は伏せている。

- ・神の使者

神が間接的に人類への干渉を行う為の存在。  
狂神の信念時のファントムも含まれる。

今回は、優秀な元人間を選抜している。  
(シヌ、ミレイ)

目的は墮天使が構成した“12人の制裁者”  
(*twelve punisher*)  
の抹殺だが、  
そのメンバーである

ファントム  
エミリア  
ナギサ  
シズル

は、今のところ抹殺対象ではないようだ。  
しかも、ファントムには協力をしてほしいらしい。

• twelve punisher

メンバー

“象徴” L V

名前

力の使用方向

支配型

“王権” L V ?

“運命” L V 200  
ナギサ

運命型

？ “食” L V ?  
攻撃型

“金” Lv200

ゴールド・シルバシノ

支配型

“拒绝” Lv200

カザリ・イリオン

拒绝型

“完全” Lv?   
ファンタム・レガス

?

“愛” Lv200

エミリア・ミュラー

支配型

“死” Lv200

シズル・シュウ

運命型

“欲情” Lv200

シェリー・エクスター

支配型

“戦争” L V 230  
ロドリゴ・ゼル  
攻撃型

“拷問” L V 200  
アンナ・ザ・ブラッド  
召喚型

？ ？ “虚実” L V ?

戦闘時にどんな戦い方をするかは、話の進行でわかります。

明確になつていらないメンバーは、次の機会にします。

ふと思つたのですが……

今現在、カレンとミレイは歳が違つナビ  
これを双子と呼んで良いのか……？

まあ、同じ時に生まれたんだから

双子ですよね（笑）

歳どうじつの話じゃないですもんね。

今の何の話だつたんだろ？

どつかと書いと  
サブストーリーに近いかな？

## 1章：2 ～嘘＝眞実～

都市リンク  
地下都市 カジノ

きらびやかに見える汚い裏カジノで、ルーレットにヒトが集まっていた。

青年が1つの番号だけに全チップを賭けたのだ。  
換金したら1億メセタはくだらないだろう。

1チップ＝1万メセタ  
と、高レート。

ルーレットにおいて、

1つの番号に賭けての配分は32倍。

勝った場合32億メセタと、普通のカジノでは破綻的金額だ。

しかしこの裏カジノでは、問題が無いようだ。

ディーラー

「よろしいですか？」

賭けた青年に問う。

青年

「問題ありません。  
早く回しましょう」

その肝が座った態度に、野次馬はざわつく。

ディーラーがルーレットを回す。  
ボールが放たれ、だんだんと遅くなつていき……

.....

見事に賭けた番号に当たつた。

その瞬間に歓声が響いた。

ディーラーも驚きを隠せない。

「いや、違うところに驚いていいよ、ひつだ。」

青年

「どうしました?

もう一回賭ける前に換金してほしいんですが?」

実はこの青年……

1チップから始めて、連続で1つだけの番号を当てるのだ。

ディーラー

「わかりました……

すぐご用意致します」

そう言つと、換金所の奥へ消えていった。

ディーラーが居なくなると、野次馬の1人が話しかけてきた。

野次馬

「アンタすげえな!

(なんだい、イカサマしてのかい?)」

耳打ちしてきたが、青年はハッキリと答えた。

青年

「イカサマ？」

……とんでもない。

むしろ、イカサマしてたのは『ティーラーデ』ですよ

野次馬

「んな事はわかつてゐる。  
ぢつちつ……

青年

「全て“真実”

全て“嘘”

……わかるんですよ。

何となくね……

だからここで止めておくんです

野次馬

「そりはいかねえ」

力チャ

青年は頭に銃を突きつけられた。

他の野次馬にも。

青年

「そういうえば、お客様の数が減りましたね。  
貴方達が出ていかせたのですか？」

「ここを取り仕切るチユーザレファミリーですね？」

チユ構成員

「頭が良いなあ。

俺達のイカサマが通じないわけだ。

……で？ どうやってイカサマしたんだ？」

青年

「言つたでしょ？

何となくわかるって

チユ構成員

「そつやつてヒトは嘘をつく。

俺はそういうのが嫌いでね……」

青年

「その通り、“嘘”です。

しかし貴方に“人間”的がわかるんです？

貴方も所詮“人間”という“ゴミ”でしょう？」

構成員がスタンモードをOFFにした。

チュ構成員

「10秒以内に答える。

1.....

2.....

青年

「だいたい貴方達の存在意義は何ですか?」

3.....

4.....

青年

「結局愚かしい事をしただけで死ぬ存在

5.....

6.....

青年

「なら僕が存在意義を与えましょ、う

7  
8

青年

「貴方達に存在意義は元々無い。  
死ねよ……」

クソゴミクズ野郎共

9  
10  
—

銃の引き金が引かれた。

しかし……

鉛弾が発射されない。

全員がだ。

チユ構成員

「！？」

青年

「全員の銃に弾を入れ忘れた。  
それが“真実”です」

両手の袖から鉄扇を取り出して、構成員達の喉を斬つた。  
血飛沫を鉄扇で受け止める。

青年

「汚い血をかけないで下さい。  
どこまで行つても使えない存在だ」

シユツ！

と、血を飛ばし……

生き残りの構成員を探しに向かった。

警備室を制圧。  
事務室を制圧。  
個室を制圧。

最後に換金所へ行く。

扉を開けて、隠れているヒトを殺していく。  
容赦など全く無い。

ある程度始末し終わると、1人だけ生き残りを作る。

構成員  
「ヒイ！ 助けて！」

青年

「うるさいですよ。

「……、開けて下さい」

金庫の前に連れていつて開けさせた。  
中には大量の現金があつた。

青年

「32億メセタ。」

早めに

構成員

「は……はい……」

アタッシュケース32個にメセタを詰め終わる。

青年

「長かつたですね。  
でも助かりました。」

twelve punisherには資金が必要なんですが……

“お礼”として、半分は貴方にあげます。  
16個でも重いんですけど」

ケースの大半をトランサーに仕舞い、残りはキャスターを使って運ぶ青年。

ヒトを殺した事を何とも思っていない……

それほど……

すがすがしい顔だった。

（

ハル

「ハ～イ！

グラールチャンネル5。

ニュースキャスターのハルです！

今日のニュースを

ピックアップ！

ハル

「ニユーデイズ

都市リンクヨで昨夜発生した、裏カジノ襲撃事件。

その新情報が入りました。

生存者のチュー・ザレファ・ミリーの構成員に事情聴取していたところ

構成員の方は支離滅裂な事を口走りながら、舌を噛み切つたとの事です。

一命は取り止めたものの精神に異常があるとの事で、今日未明に精神病院に移送された模様です。

手がかりが生存者だけだったとあって、1からやり直しになりそうです。

……尚、裏カジノを経営していたチュー・ザレファ・ミリーのボス……キログマ・チュー・ザレは、監視カメラの映像の公開を頑なに拒んでおり、ガーディアンズは情報公開を申し込み中の事です。

また、カジノから消えた総額16億メセタの行方と同時に、カジノ自体に異常な違法性があつたとして、証拠が集まり次第に強制捜査を始めるとの事です。

この事件に対しても、早くも懸賞金をかけるとの事です。

有力な情報がある方はガーディアンズにご一報下さい

橿円形のテーブルに座っている制裁者達。

カザリは片腕が無くなつており、アンナは頭と首に包帯を巻いている。

中央の3Dテレビで流れているニュースを見終わると、電源を消した。

カザ

「チユーザレフタミリーの口止めも危ういっすね。強制捜査なんて……」

ゴー

「私が金を払つたんだ。

……それと、心配は要らない。

既に証拠の監視カメラの映像は引き取つた

ロード

「『ミリ』の中でも

“ミリ”な輩じや……

口止めで400万。

映像はどれ位じや？

ゴールドは手の指を10本立てた。

シェリー

「10メセタ？」

アンナがプラカードを出す。  
喋れないからだ。

(アン)

そんなわけないでしょ。  
1000万メセタよ。  
頭使いなさい、  
やり ん野郎。

シェリー

「1000万！？」

大層な額だね～

カザ

「良いんじゃないの？」

16億になつて返つてくる

口アド

「それはどうかの……

“虚実”の事じや。

我々 twelve punisherの中でもひねくれ者  
うやむやにするかもしかんぞ?

それに……

元はシヌの仲間じや。

最後に我々についたが、逆も無いわけでは無い

カザ

「…………

ともあれ。

こっちの仲間になれば戦力になるし、“食”も復活できる、僕ちん  
やアンナさんの怪我も治せるでしょう。

早く見つけよ!」

いつになく真剣な顔をするカザリ。

他の4人も真剣な顔し、  
イスから立ち上がった。

青年

L V?

性別・男性

年齢・20歳

種族・ヒューマン

身長・178cm

体重・66kg

タイプ・“虚実”

運命型

召喚型

髪・後ろのトゲトゲが  
目立ちにくい髪型

灰色

服装・イロハフブキ、黒

所属・twelve punisher

“虚実”を象徴する青年。

ヒトを殺す事に容赦無用かつ、何とも思わない。

カジノで手に入れた大金は、制裁者達の為に使うつもりのようだ。  
しかし元はシヌの仲間だったようで、ひねくれ者のようにだ。

“虚実”の力は、

制裁者達の中でも異質でありファンタム（制裁者）と同等に近い。  
“虚実”は嘘だけではなく、真実までも司る。

・運命型

事実を根本的にねじ曲げられる。  
構成員の銃は元から鉛玉が入っていたが、入れ忘れたといった  
真実を作った。

しかし制限が存在している。  
目に見えていない場所でしか影響を及ぼせない。  
他の存在に影響を及ぼせない。

・召喚型

嘘を作り出す能力。  
非常に強力な能力ではあるが、制限がある。  
他の存在に影響を与える  
元々存在しないもの  
(天界と地獄の存在も含まれる)  
は作り出せない。

武器として使う鉄扇は、愛用品。

彼岸島っぽい?  
若干意識します。  
雅好きです。

1章・終～招待状～（前書き）

後日談つて雰囲気です。

セリフ多め。

## 1章・終／招待状

ケイリヨン刑務所襲撃事件から4日後……

クラッド6

リトルウイング

居住区 ファントム自室

グラールチャンネル5の  
裏カジノ襲撃事件を見終わると、俺はテレビの電源を消した。

ファ

「昨日の事件か

ハア

嫌な事思い出した

実は昨日  
マリと酷い喧嘩をしてしまった。

兄貴が入院した日から質問攻めにされて、ついカツとなってしまい

今は兄貴の居る病院だ。

マリだけではない。

ロスト、リリス、タイラー、ヴィヴィアン、バアル……  
あの場に居た知り合いに、かなり不審がられている。

シヌの事を話したのは間違いだった。

「ア  
ハア……

そういうば、オウトク山に行くのは3日後……  
マリも呼ばれてるのか……  
どうにか仲直りしないと……」

俺はジジフォンの記録機能に、仲直りの言葉を考えて書き始めた。

リトルウイニング  
カフェ

姉弟揃つたミカとワイナールが、仕事の話をしながら優雅に紅茶を飲んでいる。  
いつもの服装だ。

ミカ  
「この前の研究は進みました?」

ワイ  
「うん……これが難しくてね……  
……シズル君がガーディアンズから貰つたシールドライン……  
あれ作つたりゼンつて言うヒトは、刑務所に入つてから進まない  
んだよね」

ミカ  
「では、私の課題が終わり次第に手伝いましょう」

ワイ  
「ありがとう。  
姉さんがいれば百人力だよ」

シヌ

「姉弟で午後のティー・タイム。

幸せそうだな」

ミカ「！？」

ワイ「！？」

氣配を消して、シヌが近くに座っていた。

ミカ

「シヌ！？」

何故……！？」

シヌ

「そんな事は別に良い」

ワイ

「君は死んだと……」

シヌ

「死んだ。

だから？」

些細な事だ。

俺がここに詰らるるのには制限時間がある。

話を済ませよ。」「

ワイ

「君の話?」

「聞きたくないね」

シヌ

「面倒くさいな……

じゃあ一方的に話す。

3日後にオウトク山に来てくれ。

君達がグラールを救いたいなら

背中を向けて歩き出す。

ミカ

「どうこう事です?」

ワイ

「僕が思つて、君がグラールを滅ぼしそうなんだけど

シヌは背中をみせながら……

シヌ

「聞く氣はあるか?」

と聞いた。

ワイ

「……ある」

ミカ

「正直、心を許せませんが  
グラールに関してなら……」

シヌ

「そう言つてくれると思った」

病室内ではリリス、ヴィヴィアン、マリが居た。ルシフェルはまだ意識不明だ。

マリは頭を壁に押し付けながら、項垂れている。

マリ  
「ハア～……」

ファンタムと同じ様なため息だ。

リリ

「早く仲直りすれば良いじゃない」

マリ

「仲直りしたいけど……

リリスさんはムカつきません?」

リリ

「副隊長だけじゃないわよ」

マリ

「？」

リリ

「ヴィヴィアンさんにロストさんを観察してもらつたら……」

ヴィ

「恐らく何か知つてゐる雰囲氣です。

ルシフェルさんも、少し前と変わつたところがあります」

マリ

「……男つて……」

Gコロニー  
ガーディアンズ  
総裁室

総裁室にバアルとライア総裁、カーツ司令官、タイラーが集まつて  
いた。

「全員に届きましたか」

バア

バアル達が手紙を、目の前に掲げる。

ライ  
「オウトク山……  
しかもこの面子……」

カ一  
「昔みたいだな」

タイ  
「5年前か……  
懐かしいものだ」

バア  
「……しかも送り手が、ミレイ・ミクナ。  
ただ事じゃないですね」

手紙を仕舞う。

バ  
ア

「納得できる話を期待しましょう」

1章・終　～招待状～（後書き）

なんか、

中途半端な感じですみません。

## 2章・0 ペテン師

ニューデイズ  
オウトク山  
グラール教団

この日……  
ミレイとシヌによつて集められたヒト達は、会議室に集められてい  
た。

マリ  
リリス  
ロスト  
ヴィヴィアン  
バアル  
カレン  
ライア  
カーリ  
タイラー  
ミカ  
ワイナール

何故かミカとワイナールがいる……  
そしてファンタムは別室……

会議室

円形のテーブルに座敷式と日本の雰囲気であり、会議室とは少し違う感じだ。

ミカとワイナーに会った事のないヒトが集まって、珍しいものを見る目で話している。

バア

「ルシフェルから話は聞いてます。  
僕はバル・セレンサーです」

ライ

「ミカが亜空間事件を……

ワイナーが欠片事件を解決したんだつたな？」

ヴィ

「凄いですよね！」

お会いできて嬉しいです」

タイ

「ヴィヴィアンもそれと同等の事をしただらう」

かつて起きた事件の解決者であり、現代に生き返った存在……  
それで称えられた事は無いので、おどおどしてしまつ。

カレ

「……」

カレ

「君は何か知つてゐるよつだな」

カレ

「何の話だ？」

カレ

「落ち着き過ぎだ。

君の双子の妹からの手紙だ。

3日前に届いて知つていたとしても、落ち着いていられないはずだ。

3日前よりも前会つていたのが自然な考え方になる」

カレ

「……

まあそれは、嘘偽りでいいるだらうな。

……1週間前から会つてゐる。

未だに詳しい話は聞いていないがな……」

「

「雪ちゃん、お待たせしました」

襖を開け、ミレイが姿を現した。

会議室とは違つた部屋

部屋にあるモニターが会議室を映している。

シヌ

「リリで見ていてくれ」

そう言い残して出ていったシヌ。

ファントムは不審に思つたが、昔とは違うのはわかっているので、指示に従つ事にした。

ファ

「何で俺だけ……」

不服に思いながらも、  
会議室の様子を見始めた。

ミレイも姿を現したが、シヌも後ろについていた。

会議室

「マリ

「…………シヌ、…………」

ライ

「アイツがシヌ?  
まだ子供じゃないか」

カ一

「あんな子供が人類滅亡を企てるとは…………」

シヌ

「やあやあ！」

俺にアツサリと仮死状態にされたグラールの代表達。  
わざわざ修行編でもやって強くなつたらビ…………痛…………！」

シヌの足を思ひつかり踏む!!レバ。

ミン

「少し黙つてて下せー…………！」

シヌ

「わかりました…………」

座布団に座り、揃つたヒトを確認する。

マリ

「揃いましたね。  
ではまず……

マリ

「あの……一

話を始める前にマリが声をかけた。

マリ

「ファンタムは……  
来ないんですか？」

心配してこる声だ。

(フア)

「やつぱり愛にな……

ミ

「彼は私の命で動いています。  
彼に話はしてあるのでご心配なく」

マリ

「そり…ですか…」

(ファ)

「ミレイ君、嘘をつくなよ」

ミ

「話を戻しますね。

单刀直入に言います。  
今グラールに…  
危機が迫っています」

(ファ)

「いきなりRPGになつたな…  
いや、ロケットランチャーの方じやなくて」

ミ

「私はシヌさんの力によつて生き返りました。

彼に聞いてわかつたのですが、彼は1年前の事件で何とか生き残りグラールに戻つたそうです……

ファンタムさんに見つからぬように過ごしていたといふ、グラールを滅ぼそうとする組織を発見し、壊滅の為に私を生き返らせました

た

カー

「わからんな。

シヌと言つ男はグラールを滅ぼしたんじゃないのか？」

シヌ

「俺以外にやらせるわけないだろ。

考えるポンコツロボ

……痛！」

右斜めにいたシヌに、  
座布団を飛ばす。

ミノ

「その組織の正体……

それは旧文明人。

旧文明人の意識をその場で引き剥がすには、私の力が効果的だそうです。

……彼らの目的は旧文明の復活。

2年前に、カムハーンと言う人物がしようとした事を行つ氣です。  
私はそれを許すわけにはいきません。

貴方達もそのはずです」

タイ

「愚問だな。

ここに居る全員が許さない」

ミレ

「は」……

そこで、旧文明回帰を阻止する為に組織を探してほしいのです」

ライ

「なるほど。

アタシ達位の地位なら、探すのは効率的だな」

ミレ

「それだけでは有りません。

組織の人員の中には私達に関わった人物もいるのです

カー

「もしや、

ロドリゴ・ゼル大佐と

シェリー・ヒクスター少尉も?」

ライ

「誰だい?」

カー

「同盟軍に所属している兵士なんだが、少し前から連絡が取れない

んだ」

タイ

「ローグスにも1人いる。  
資金援助をしてくれていた

ゴールド・シルバシノ

彼も数週間前から行方不明……

というか、ケイリヨンの森で見たぞ」

ライ

「私は……

そういうえば、ガーディアンズから推薦されていた学生がいたな……

名前は

カザリ・イリオン

だつたな」

ミレ

「皆さん心当たりがありますが、他にも関わった人物がいます。

彼らを救う為にも力を貸して下さい」

全員が頷く。

誰も否定していない。

ミレ

「ありがとうございます。

組織の詳細はシヌさんがお教えします。  
すみませんが、私はこれで……」

座布団から立ち上がり、会議室を後にした。

別室

モニターを見ている  
ファンтом。

ファ

「旧文明人……？  
その組織のメンバーに乗り移っている……  
エミリア達はまだ大丈夫なのか？」

待てよ、俺はどうなる？

俺は旧文明人だろ

ミン

「お待たせしました

後ろの襖から、ミレイが出てきた。

会議室

話し手が変わり、シヌが組織について話す。

シヌ

「てことで、俺から説明させてもらひ。

組織の名は

eight punisher

8人の制裁者だ。

その名通り8人で構成されあり1人1人がLV200、またはそれ以上。

バアル君とタイラー君が戦つたのはLV230のロドリゴだ。  
個人的に戦つても死ぬだけだから、見つけたらミレイか俺に連絡しろ

「

リリ

「シヌ、彼らが旧文明人なら貴方は知つていてるでしょう？」

ロス

「俺達は聞いた事が無いぞ」

シヌ

「公にはされていないカムハーンの部下だ。」

俺よりかはミカとワインアルの方が知つてている。

俺はカムハーンの政治や組織体制には口出ししなかつたからな」

ミカ

「乗り移つている旧文明人は、その体の人物と同じ名前をしていますね……」

ワイ

「彼らってカムハーンに忠誠を誓つていたから、カムハーンと同じ事をしても不思議じやないね」

カレ

「……」

ヴィ

「……？」

シヌ

「まあ、束になつて戦えば倒せるかもな。  
話せる相手がいるなら話して、協力してもらえ。  
……あとは……」

メンバーの名前か?  
メモしろよ。

カザリ・イリオン

ゴールド・シルバシノ

シェリー・エクスター

アンナ、本名不詳だ。

胃呪魔・豪飢

(イズマ・ゴウキ)

アルベルト・キッシャー

リゼン・シュレイド

バア

「!! リゼン!?

アイツもなのかな!?」

シヌ

「まだ乗つ取られていなかつたから、  
戦力確保の為にケイリヨン刑務所に入つていたリゼンを、奴らは拉

致しようと考へた。

もつとも、君達が囚人を移動させたお陰で何ともなかつたがな」

立ち上がるシヌ。

シヌ

「怪我したら俺が治してやる。  
今日は深入りせずについで解散。  
気が向いた時で良いから、手伝ってくれ……  
じゃあな」

ミレイと同様に会議室を出ていった。

別室

ファンタムとミレイが居る別室に、シヌも到着する。

「…………あの話…………」

シヌ  
「気づいたか?  
全部、嘘だ」

ミレ

「無闇に神の事は話せません。  
この次元のバランスが崩れて、元々無かつた事になります。  
カレンには神ではなく、星靈によつて生き返つたと言いました。  
カレンの雰囲気がヴィヴィアンさんに疑われた感じがありますが、  
問題無いでしょ?」

ファ

「…………  
本当は俺とエミリア達合わせて1-2人だな?  
奴らの正体は何なんだ?」

シヌ

「行つただろ。  
それは自分で知るんだ」

ファ

「何故?」

シヌ

「…………

「知るか。

神がそうじろって言つてんだ」

「

……旧文明人じやないとしたら……

ミカとワイナールに嘘を言わせてるな？」

ミレ

「ええ、私がシヌさんに許可を出しました。

信憑性が増したでしょ？」

ファントムは呆れ顔をして、壁に寄りかかる。

「

「……とんだペテン師達だな」

ミレ

「どう思おうと構いませんが、これは貴方の性格を考慮しているんです」

「

「どうこうの意味だ？」

シヌ

「仲間思いつてのは……

……

いつか何かを犠牲にしないといけない。

君の場合は……心だな」

ファ

「心……？」

シヌ

「いつかわかる。

その時には

twelve punisherの正体がわかつていいと思つ

話す事は話した。

マリちゃんと仲直りして

ファ

「何で知ってるんだよ」

しかし仲直りしたいのは山々なので、部屋を後にした。

シヌ

「……」

ミレ

「今になつて仲間を求めれば、貴方は犠牲を払つ事になりますよ

シヌ

「……………  
ああ、そうだな」

ファンタム同様、シヌも部屋を後にした。

## 2章：0 ～ペテン師～（後書き）

*twelve punisher* の全員の名前がやつと判明しましたが、読みづらくてすみません。

リゼン・シュレイド

胃不魔・豪飢

アルベルト・キッシャー

は別項で紹介します。

～王権、食、虚実

チューザレー（前書き）

“王権”追加  
“食”追加  
“虚実”更新  
チューザレー追加

何のインフォメーション？

リゼン・シュレイド

L v 210

性別・男性

年齢・20歳

種族・ニコーマン

身長・173cm

体重・55kg

タイプ・“王権”

支配型

髪・7:3分け、青

服装・燕尾服

所属・twelve punisher?

何百年も昔に起つた

4種族の大戦争を終結させたデイグニティ家の末裔。  
バアルの親戚であり、デイグニティ家の先代はレディである。

デイグニティ家に仕えていた頃……

狂神の信念時の惨劇に異常な恐怖を覚え、第2の狂神の信念を阻止する為に、デイグニティ家の当主になつてグラールを統治しようと企てる。

しかし誤算が連なつたせいか計画は頓挫。

テロリスト犯として

ケイリヨン刑務所に服役していた。

居場所を掴んだ

twelve punisherは刑務所を襲撃するも既に囚人は移動されており、現在は別の刑務所に服役している。

現在、twelve punisherに対して仲間意識は無い。

胃不魔・豪飢  
(イズマ・ゴウキ)

L V 2 0 0

性別・男性

年齢・31歳

種族・ビースト

身長・223cm

体重・209kg

タイプ・“食”

攻撃型

髪・セミロング、緑

服装・橙ジャージ

赤パークー

所属・twelve punisher?

タイプは“食”だが、

別に太っているわけではない。  
逆にムキムキだ。

異常にカロリーを消費する為か、行動後は何かを“食”さなければ  
ならない。

人間的な食べ者を摂取しないと、ヒトから建物まで何でも“食”し  
てしまう。

実は、狂神の信念時にクリンサ街で暴れていたOFMの正体である。  
その為、死亡している。

アルベルト・キッシャー

L V 2 5 0

性別・男性

年齢・20歳

種族・ヒューマン

身長・178cm

体重・66kg

タイプ・“虚実”

運命型

召喚型

髪・後ろのトゲトゲが

目立ちにくい髪型

灰色

服装・イロハフブキ、黒

所属・twelve punisher?

twelve punisher 内でもかなりの実力者。かつ、メンバーから変わり者呼ばわりされている。

制裁者の中でも強力な力、“虚実”を司っている。

（能力については1章：2の後書きに記述）

都市リンクにある裏カジノを壊滅させた人物であり、それに伴ったヒト殺しを何とも思っていない。  
怒りでもなく、快樂でもなく……  
何も感じない。

例えるなら、人間が息するのと同じ。

日本的な文化を好んでいるのか、  
服にイロハフブキ、  
武器に鉄扇を使用する。  
その為かはわからないが、日本刀を使うファンタム（制裁者）とは仲が良い。

元々 twelve punisher 達の仲間ではなく、シヌと知り合いだつたようだが……？

## キログマ・チューザレ

性別・男性  
年齢・49歳  
種族・ビースト  
身長・191cm  
体重・80kg  
髪・後ろに束ねている  
茶色

服装・特注のタキシード

白

所属・チューザレ  
ファミリー

## ニユーデイズの

都市リンヨに根付くマフィアのボス。  
地下で裏カジノを経営していたが、アルベルトによつて破壊されフ  
アミリーの2／3が機能していない。  
壊滅後……

ガーディアンズにカジノの違法性を追求され、大人しくしている。

ゴールドに買収されており、口止めに400万、監視カメラの映像  
に1000万を貰つてゐる。  
しかしながら罪悪感を感じており、早急に犯人を見つけて舎弟の為  
に報復したいようだ。

～王権、食、虚実

チューザレー（後書き）

“虚実”的能力で  
樂してすみません。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5272y/>

ファンタシースターポータブル2 偽神達の転生（日常編続き）  
2011年11月27日22時50分発行